学生の学びを支援するために

学術情報リテラシー教育担当者研修
（2012年11月29日　東京会場）

九州大学教育改革企画支援室
小貫有紀子

本日の講義内容

- “学生の学び”とは？
- 図書館における“学生の学び”とは？
- 講義内容のふりかえり

この講義の学習目標

- なぜ、今自分たちが「学生の学びの支援」を考える事が大切なのか、他者に説明できるようになる

- 学生の学びを促進するために、どのようなアプローチが考えられるか、自分の言葉で他者に説明できるようになる

皆さんへの期待

私からの問いかけや、話し合いに対して、一人一人の積極的な参加を期待します。

話合いを通じて、自分の中でモヤッとしたイメージを客観的に見たり、一人では辿りつかない新しいアイデアを生む体験を！

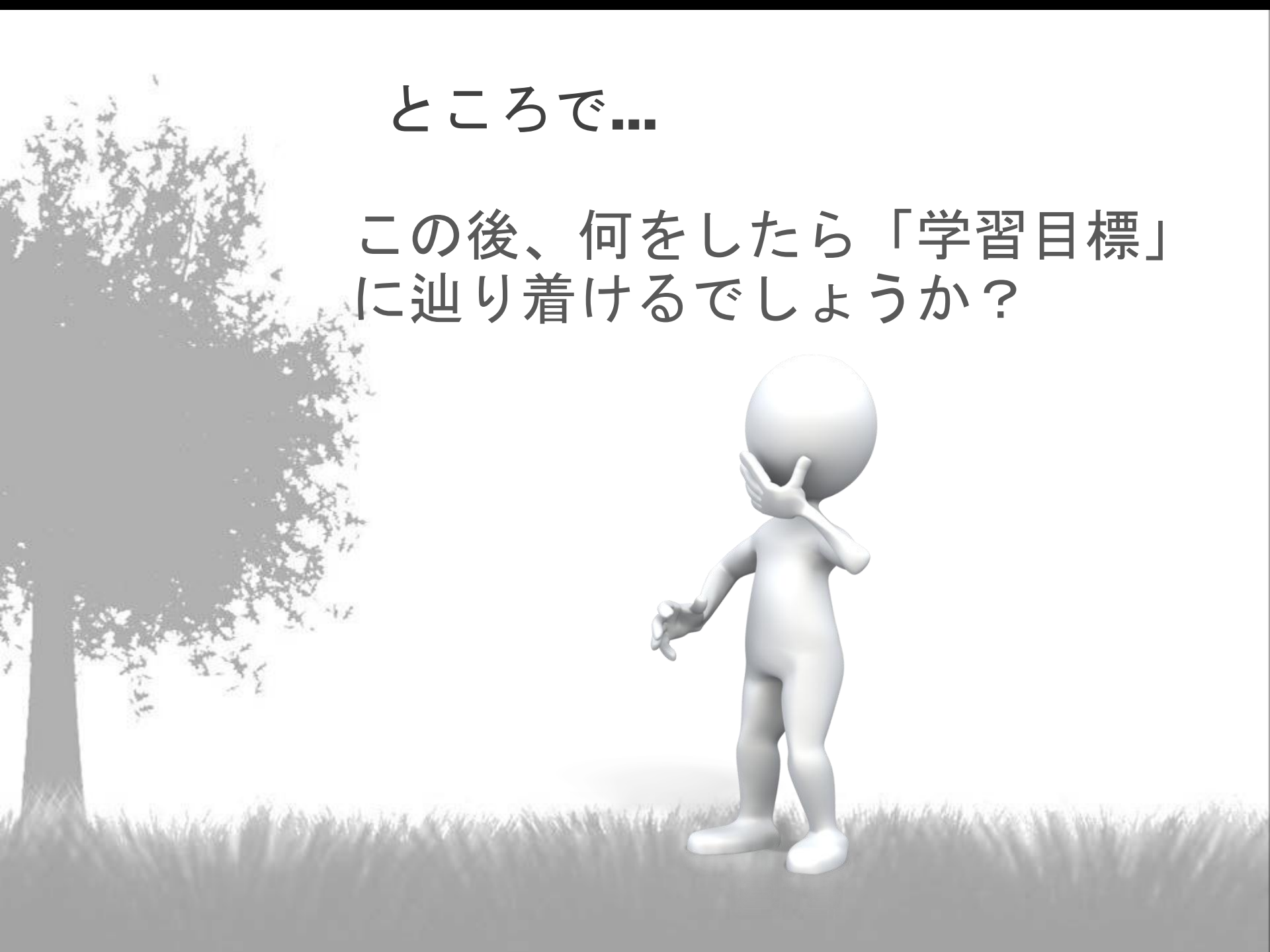
皆さんはこの講義に
何を期待しますか？

Check-in

チェックイン

ところで…

この後、何をしたら「学習目標」に辿り着けるでしょうか？



講義・ワークショップの組み立て

ビジョン・目標

終了時に参加者にどんな姿になって欲しいか？

スケジュール

何時・どこで・誰が？

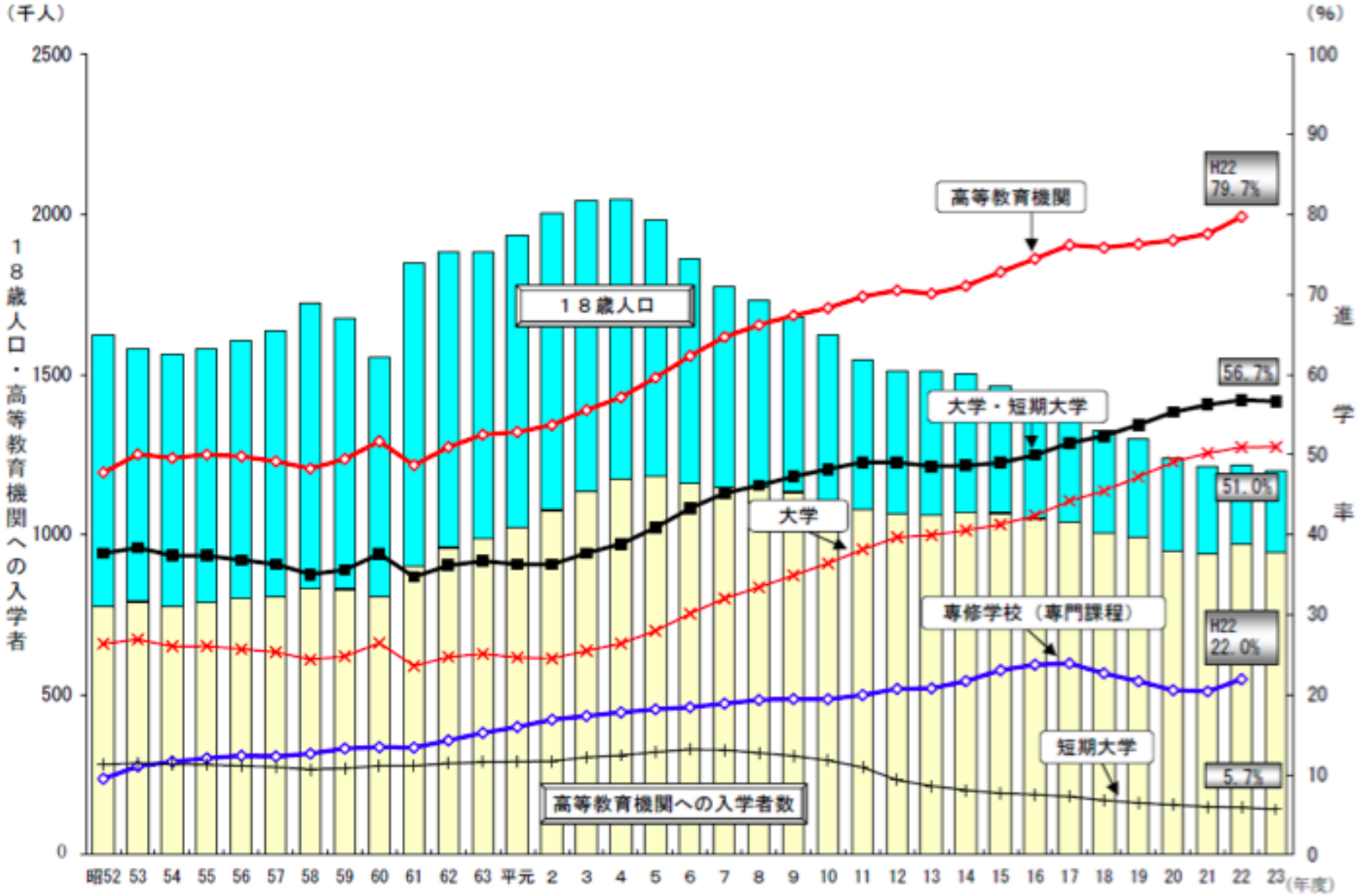
内容・手法

何を・どうやって？
※場所や時間の制約注意！

構成・流れ

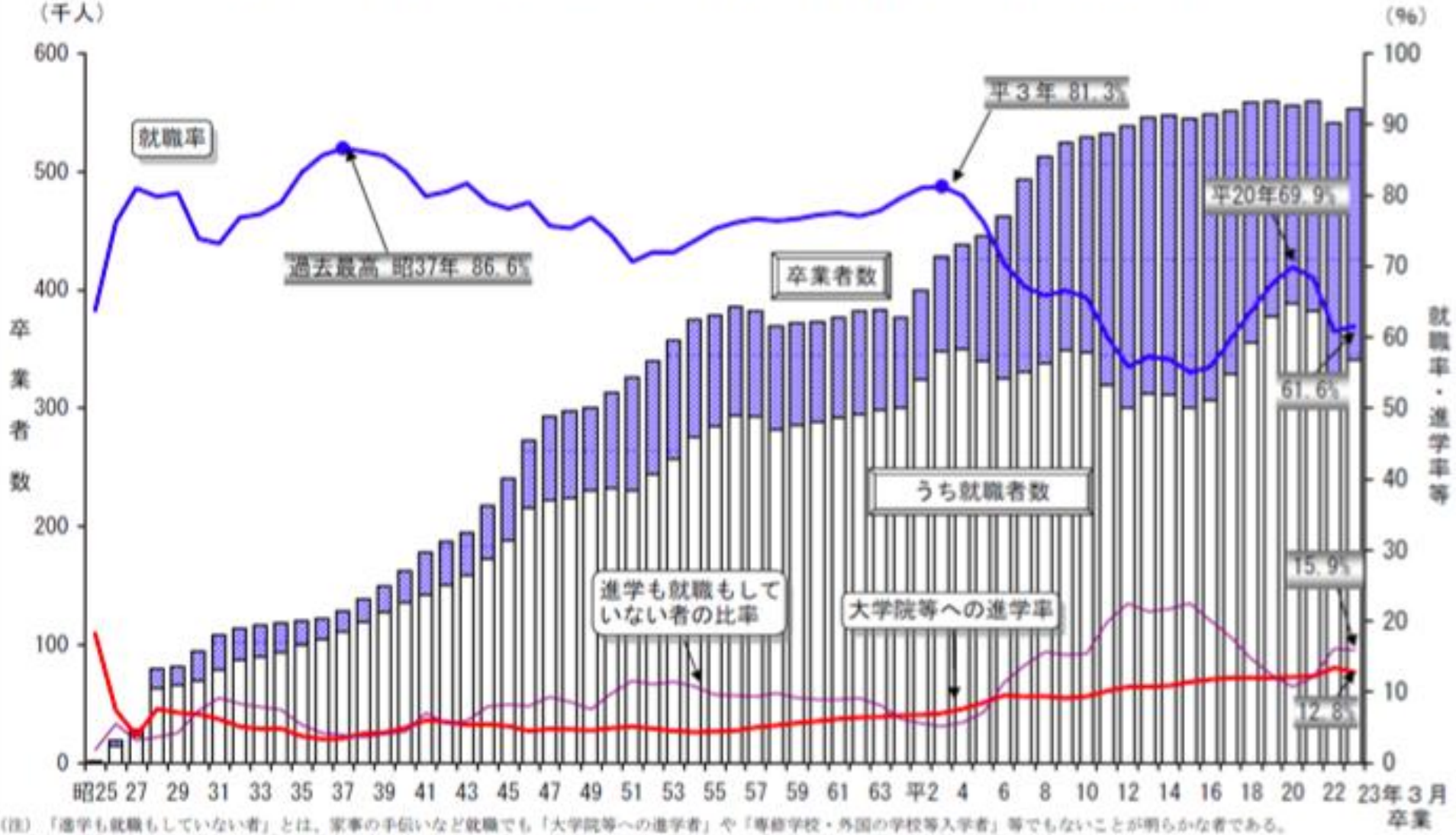
“学生の学び”とは？

図３　高等教育機関への入学状況（過年度高卒者等を含む）の推移

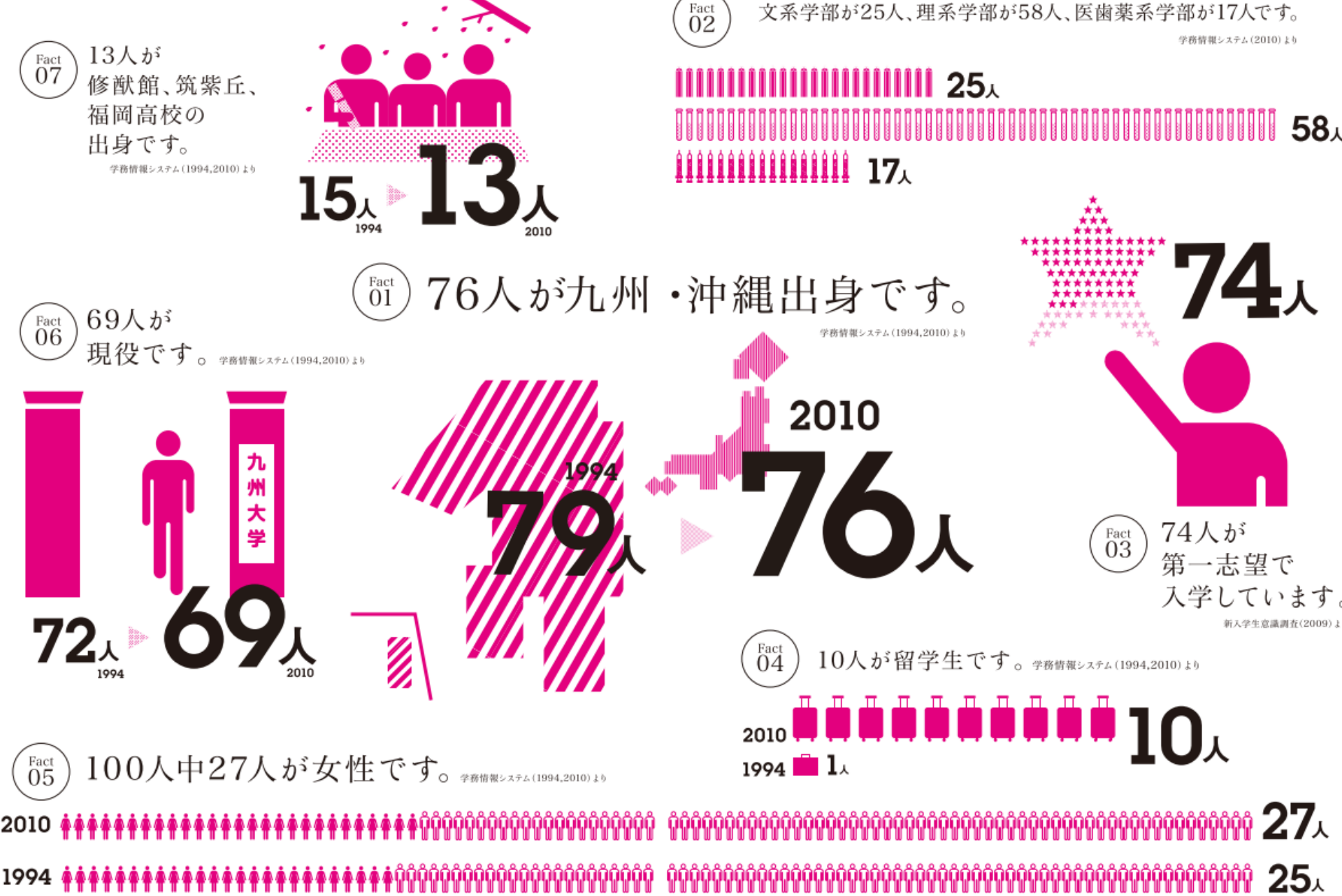


（注）１　１８歳人口とは３年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数をいう。
２　「高等教育機関」のうち岩手県，宮城県及び福島県に所在する専修学校（専門課程）入学者については未集計のため、平成２３年度は反映していない。また、「専修学校（専門課程）」についても同じ。

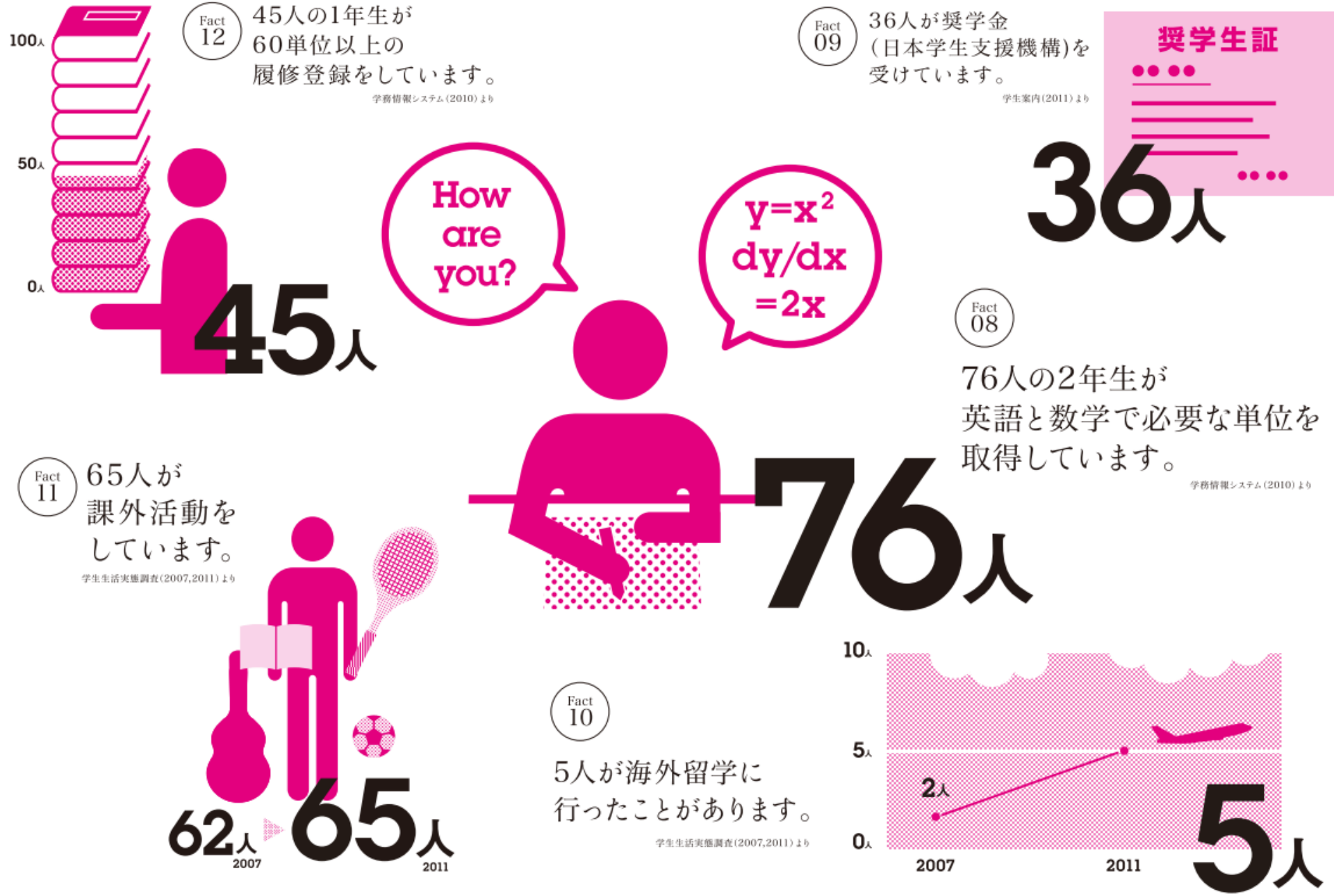
図５　卒業者数、就職者数及び就職率等の推移［ 大学（学部）］



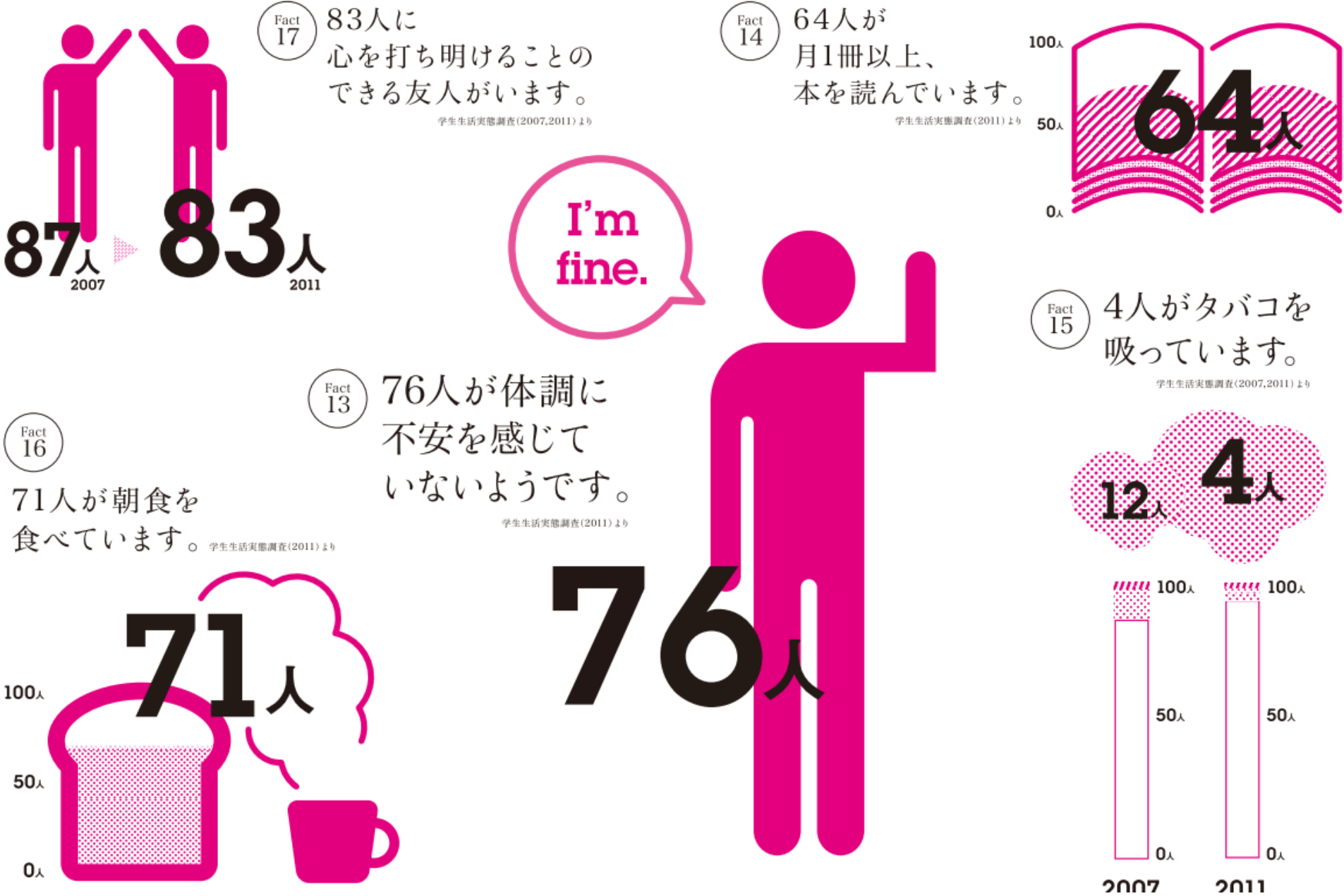
（注）「進学も就職もしていない者」とは、家事の手伝いなど就職でも「大学院等への進学者」や「専修学校・外国の学校等入学者」等でもないことが明らかな者である。
また、昭和62年以前の数値には「一時的な仕事に就いた者」を含み、平成15年以前の数値には、「専修学校・外国の学校等入学者」を含む。



「If the Kyudai were a village of 100 people（もし九大生が100人だったら）」(http://www.facebook.com/KyushuUniv)



「If the Kyudai were a village of 100 people（もし九大生が100人だったら）」(http://www.facebook.com/KyushuUniv)



「If the Kyudai were a village of 100 people（もし九大生が100人だったら）」(http://www.facebook.com/KyushuUniv)

学生の多様化

- 遊び離れ、勉強志向の高まり
- 学力低下問題
- 部活・サークル加入率の低下
- 友人関係の狭小化・希薄化
- 女子学生のキャリアの広がり
- 相談相手としての教員

武内清編『大学とキャンパスライフ』上智大学出版, 2005年

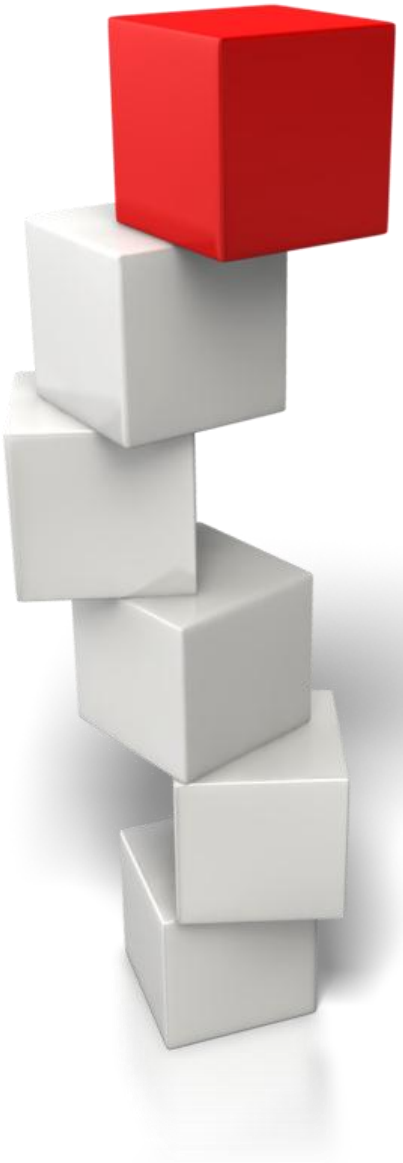
大学生が「学ぶ」時

- 学ぶ内容が自分の生活にとって意味がある（学ぶことが必要だ）と納得している
- 能動的に参加する機会がある（少人数活動）
- 学生が主体的に考える時間を持つ

教授パラダイム	学習パラダイム
知識は教員から学生へ伝授される／学生は情報を受動的に受け取る	学生は情報を集め、組み合わせ、統合することを通して知識を構築する／学生は主体的に関与する
知識の活用を想定せず、習得することが強調される	現実の生活における課題や問題を解決するために知識を活用し、繋げることが強調される
正しい答えが強調される	より良い質問を生み、失敗から学ぶことが強調される
文化は競争的かつ個人的	文化は協働的、共同的かつ支援的
学生だけが学習者と見なされる	教員と学生は共に学ぶ

（Huba&Freed(2000)*Learner-Centered Assessment on College Campuses*)を編集。

- 過渡期の今、皆さんの大学での教育は、2つのパラダイムのどこでバランスを取りながら進めているのでしょうか？
- 図書館は、大学が目指す学習者像に、どのように貢献できるのでしょうか？

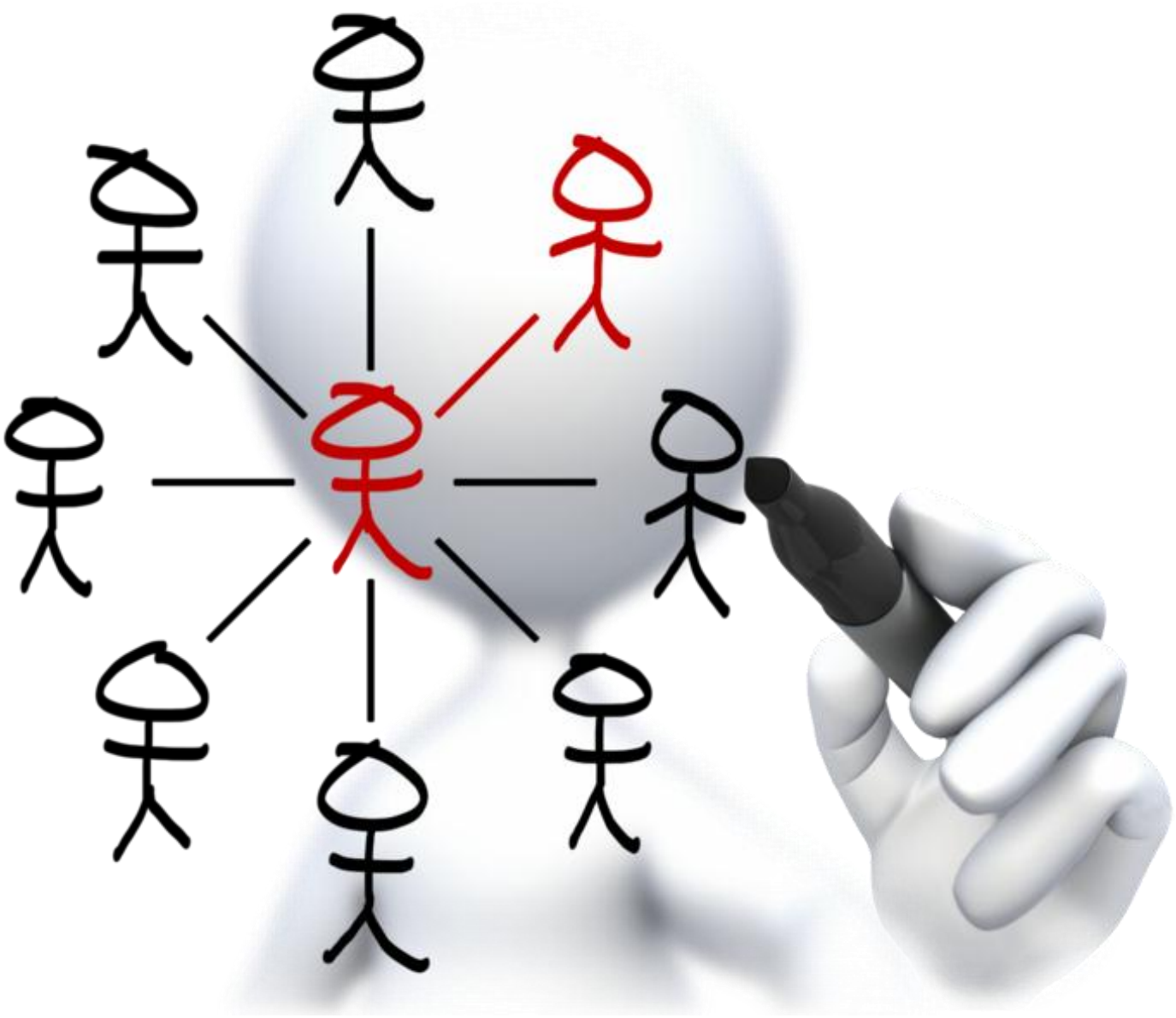


図書館における
学生の学びとは？

学びを促す関わり方

- 学生の言葉を頭ごなしに否定しない（学生の相談やコメントは、真意が別にあることも）
- 良いタイミングで褒める（自己効力感を高める）
- 学生が主体的に考え、発言する機会をつくる
- 最初は丁寧に、徐々に一人で（最初から自律的な学習はできない）
- 電子媒体（メール、e-ラーニング）は、対面での支援を充実させるために使う

今日の講義のふりかえり

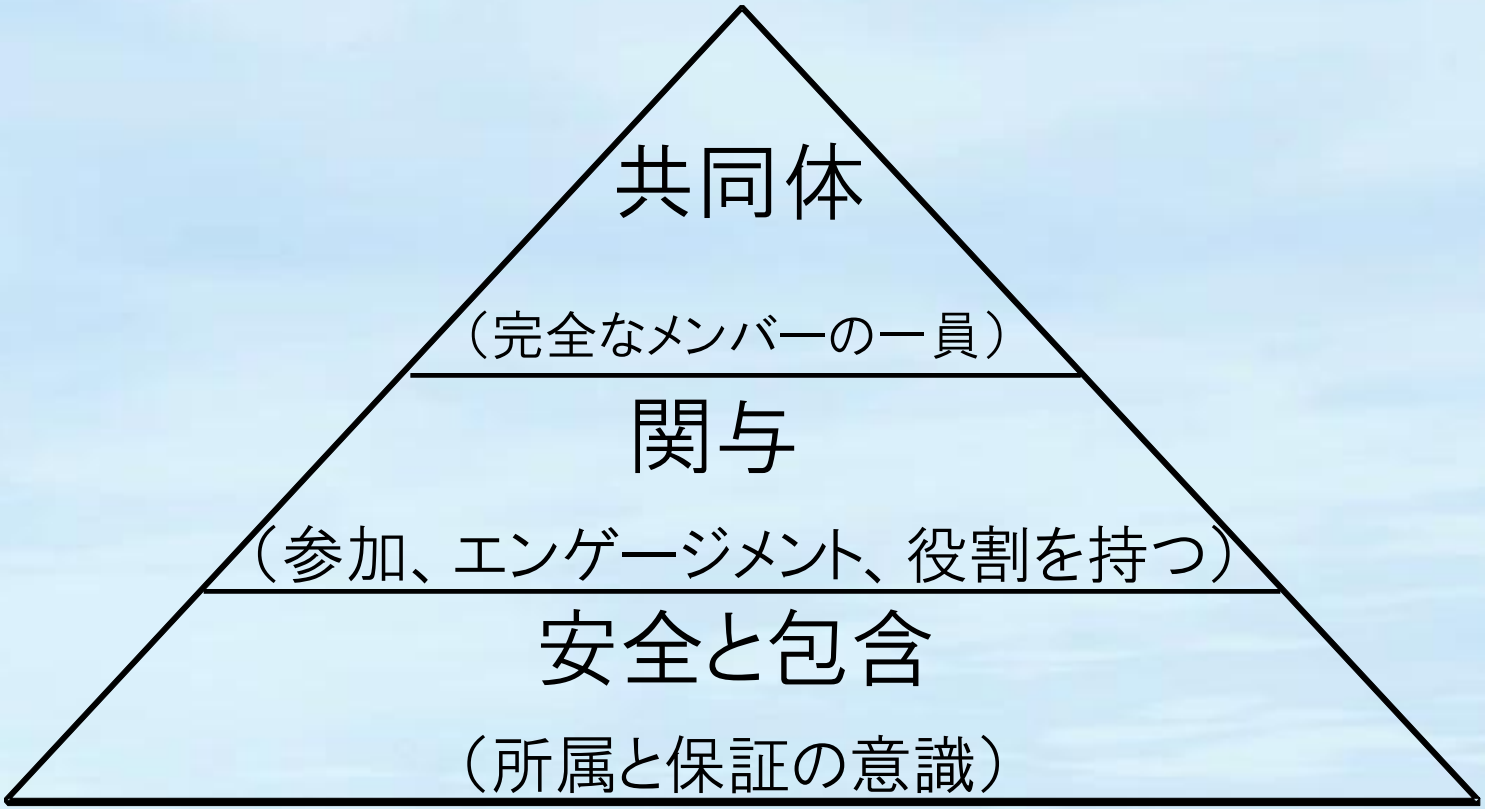


今日は何を話し合ったのか？

- 現在の状態 ⇒ 将来の理想

※2つの間のギャップを埋めるもの＝「支援」

学習環境の3段階モデル



Strange＆Banning(2001)

最後に…

- 万能な手立ては無い
- 発想を豊かに、仲間と知恵を出し合いながら進めていく
- 仲間は職場の中だけではない（他部署・大学にも仲間はいる）

Check-out
チェックアウト

自己学習のための参考文献

- Blimling, Gregory S., and Whitt, Elizabeth J. (1998). "Principles of Good Practice for Student Affairs." About Campus, 10-15.
- Huba, Mary E., and Freed, Jann E. (2000). *Learner-Centered Assessment on College Campuses: Shifting the Focus from Teaching to Learning*, Needham Heights, MA: Ally & Bacon.
- 名古屋大学高等教育教育研究センター『ティップス先生からの7つの提案』(http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/)
- 西村佳哲『かかわり方の学び方』筑摩書房，2011年.
- 水越伸『メディアリテラシー・ワークショップ：情報社会を学ぶ・遊ぶ・表現する』東京大学出版会，2009年.
- 佐藤浩章『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部，2010年.
- 上田信行『プレイフルシンキング：仕事を楽しくする思考法』宣伝会議，2009年.